

「寄せ付けない」「侵入を防止する」「個体数を減らす」の3つの取組による被害の軽減と

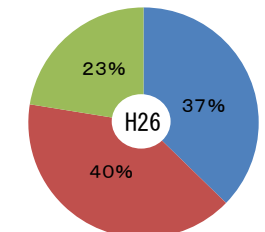
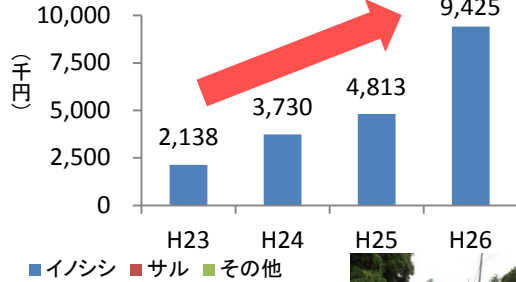
サル被害対策への新たな取組の実施 ー鹿児島県鹿屋市ー

○ 増加するイノシシによる水稻やいも類，サルによるいも類への被害に対応するため，集落ぐるみの意識啓発や専門員による指導（寄せ付けない），侵入防止柵の設置（侵入を防止する），有害鳥獣捕獲（個体数を減らす）の3つの取組を実施し，野生鳥獣による農作物被害を軽減。また，サル被害対策としてGPSを活用した行動域の把握と犬の鳴き声による追い払いの効果を確認中

鹿屋市の課題

【農作物被害の現状】

- ・鹿屋市の野生鳥獣による農作物被害額は，平成23～26年度の3年間で約4.4倍に増加
- ・被害額全体の8割近くがイノシシとサルによる被害



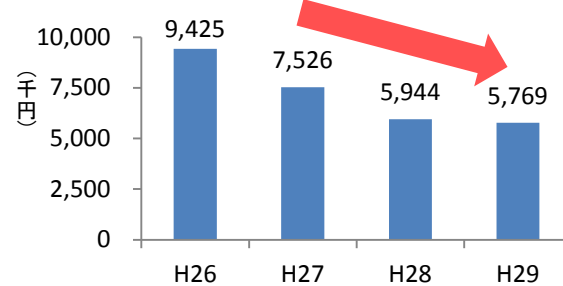
【現場のニーズ】

- 住民からは
- ・有害鳥獣の捕獲を進めて欲しい。
 - ・侵入防止柵を設置して欲しい。
- 行政としては
- ・鳥獣を寄せ付けない環境整備も必要
 - ・専門的な知識を有した指導者が必要

対策の効果と主な取組

【対策の効果】

「寄せ付けない」「侵入を防止する」「個体数を減らす」を柱とした総合的な被害防止対策を実践し，鳥獣被害を軽減



【主な取組】

- 集落ぐるみの鳥獣被害対策研修会の開催（年6回開催）
- 実施隊による緩衝帯の設置
 - ・地域と協力し，鳥獣被害が発生している農地周辺に緩衝帯を設置
- 侵入防止柵の整備
- 近隣市町との広域捕獲の実施
 - ・近隣市町と連携した捕獲を実施
- 鳥獣被害対策専門員の設置
 - ・被害調査や集落点検の実施，侵入防止柵や捕獲檻の設置などを指導
- 猟友会によるパトロールの実施
 - ・市内6つの全猟友会が，環境整備指導や捕獲，追い払い活動を実施。



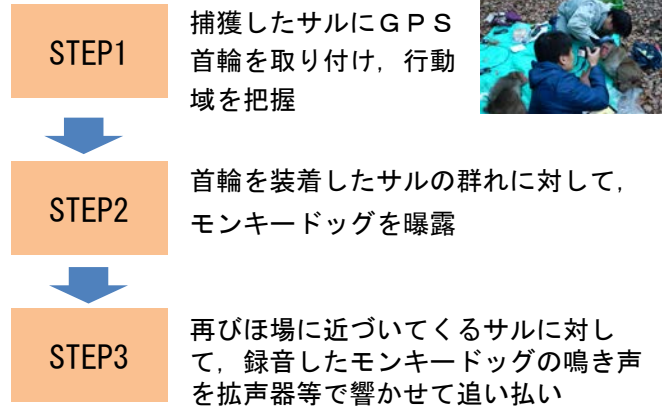
残された課題と新たな取組

【残された課題】

- ・野生鳥獣による農作物被害は減少傾向にあるが，サル被害の割合は依然として高い。
- ・サルは他の鳥獣と比べて学習能力が高いと言われることや，狩猟者の精神的な負担を伴うこと，群れを分散させない高度な捕獲技術が求められることなどから，依然として対策に苦慮。

【新たな取組】

近年，鳥獣被害防止対策としても活用が進みつつあるICT等の新技術を活用したサルの追い払い対策を実証中



サルの追い払いによる被害軽減を目指す